

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第30回

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案					
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	ダムに瀬切れ解消のための容量を確保し、夏期に水を流すという案について、「ダムに水をためることによる環境への負荷」という一言のもとにここに書いてありますけれども、これはどういう内容を具体的にお願いします。一番極端な例でいいんですけども、どういうことでこの環境への負荷が大きいと判断なさったのか御説明いただきたいと思います。	「足羽川ダムに瀬切れ解消のための容量を確保する」案は、どのような点から環境に負荷がかかると判断したのか？	3001
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	ここで足羽川ダムの瀬切れ解消云々というのは、別にそれを解消するための正常流量を見直すことはしないでという形で、今までに計算された形の正常流量のみで、あとの形を検討していくと理解すればいいんですね。正常流量というのは今まで何回か出てきて、それでいけばいいと解釈すればいいんですか。だから、あとの細かい数字的に精査はしなかったという解釈でよろしいんですか。	足羽川の瀬切れ解消のために正常流量の見直しはしないのか？	3002
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	これまで自然の形がどんなものなのかということを論議してきたわけですが、画期的な報告だと思っんです。自然がいい、負荷をかけない。できるだけ我慢できることは我慢して、自然体系をそのままに置こうと。私はそういう意味では、今まで論議してきた中で非常に画期的な報告だったと思っています。	足羽川の自然について「負荷をかけない、我慢できるところはできるだけ我慢する、自然体系をそのままにする」という今回の報告は画期的なものと思う。	3003
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	平成6年の大干ばつ。そのときに毘沙門橋はもちろん瀬切れを起こしたわけですが。当時、日野川が大干ばつということで新聞でも大騒ぎしていましたが、足羽川で農業被害はなかったんですね。水が豊富にあったと。それで我々も疑問を感じまして用水の末端へ行っったんですが、そこには水があふれて流れていたそうです。そういうことがありますので、今度また足羽川堰も立派なものになりますので、今後の運用によってこの瀬切れもまた緩和されると思います。今後の指導、水利の配分につきまして十分な施設、勘案していただきたいとお願いいたします。	足羽川の瀬切れについては、適切な農業用水の配分や指導等によって解消に努めていくべき。	3004
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	ただ、これはすべてのダムに通ずるものではないということだけを申し上げておきたいと思います。なぜかという、水をためることがすべて否定されてしまうことになりまして。この場合には、それだけの流況改善するニーズがそれほど大きくなかったということと、現在の瀬切れする区間は非常に水が浸透しやすい区間であって、これを解消するためにはかなりの水をためないと非常に難しいという判断もあって、ためることが必ずしも技術的、環境のプラスマイナスの評価から見て合理的な判断ではない。そういう御提案ではないかとは理解します。	足羽川では、流況を改善するニーズが大きくなかった点と、瀬切れ解消のためにかなりの水量が必要であるという判断から、ダムによる補給に頼らないという結論に達したと考えられる。	3005
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	人がたくさん住んでいる近くに足羽川ダムがつけられることによって、水質が富栄養化して、その富栄養化した水質を改善するために少なくとも相当のお金を使わなくてはならない。そうすると、それまでは水を利用するにしてもそんなにお金をかけないで利用してきたのに、ためたことによって、今まで私たちが50年ダムの研究をしてきて、それを解消するためにはかなりの水をためないと非常に難しいという判断もあって、ためることが必ずしも技術的、環境のプラスマイナスの評価から見て合理的な判断ではない。そういう御提案ではないかとは理解します。	ダムに貯めた水が富栄養化すると、その水質を改善するために費用が必要となる。足羽川ダムでも、水を貯めることによって富栄養化し、相当費用がかかるようになると思われる。	3006
第30回流域委員会					環境・利水（利水）	環境・コストに負荷がかかるという内容の背景等も含めて、特に足羽川においては、こういう形でためて瀬切れを解消するやり方はダムのりとしては考えないでいこう。こういうことで意見、審議等も含めてやってきたと思っております。そのような扱いで理解していきたいと思っております。	足羽川ダムは、瀬切れ解消のために常時水を貯めない型式とする。	3007
第30回流域委員会					治水（河川整備）	足羽川ダムの住民説明会パンフレットに、常時水をためるもの、ためない場合というふうに書いて、これは住民の意見を聞いて決めるものだ。この中では、常時水をためない場合は事業費が小さくなるし、水没面積も小さくなる、ダム容量も小さくなるなど書いているわけです。この議論が、前回サイトを再検討したときに出ていない。この議論を何度かしているの、この説明はどこかに残しておかないと、本日のこの後のダムの話をする、そこに至る経緯のとき、何か抜けているような気がして仕方がないんです。	前回（第29回）の池田サイトと美山サイトの比較は、治水専用ダムを前提に行ったものか？	3008
第30回流域委員会					治水（河川整備）	スライド2は古い計画ですね。集水面積とかは一緒に、少しダムの規模が大きいうことですね。それで、スライド9が、2,400m ³ /sじゃなくて2,600m ³ /sの、150年確率で描いたものですね。そうすると、スライド9は基本方針ですか。そうすると、整備計画で描いてきた規模は、この中には資料としてはないわけですね。	整備計画で議論してきた足羽川ダムの規模は？	3009
第30回流域委員会					治水（河川整備）	後から大きいダムに嵩上げする手戻り工事をやるよりも、基本方針に従って一挙にやった方が100～200億円ぐらい安く、経済的になるというお話でしたが、この基本方針に従った96mのダムを試算すると幾らぐらいになるんでしょうか。これまでダムのコストはわからないという、650億円ぐらいから、一部紙面なんかによると2,900億円という話も出たことがあります。余りにも幅があり過ぎて、概算でよろしいからお願いします。	基本方針対応のダム高96mの事業費は？	3010
第30回流域委員会					治水（河川整備）	「穴あき」と俗に言っていることは、実際にダムをつくる時の言葉としてはどれが正式になるんですか。これが「穴あきダム」としての計画だということは、今お聞きしてわかったんですけども、一般的に考えるとどれが「穴あき」なのか。これだけにしても、これが「水ため」でなくて「穴あき」ということが一つ。	計画している「穴あきダム」とは、どのようなものか？	3011
第30回流域委員会					治水（河川整備）	結局、75mでなくして96mのダムをつくり、そして15mの導水管をつくると答申をすると、先ほど長期計画としてはおおよそ1,500億円とかいう話がありましたけれども、今回の計画の中に入るのは、費用としては大体何割ぐらいが盛り込まれるのだろうかとお聞きしたかったんです。	当面20～30年での整備では、どの程度の事業費となるのか？	3012
第30回流域委員会					治水（河川整備）	基本方針は基本方針でいいんだけど、少なくとも何ゆえに150年というハードルがいいのかということも議論しないと、「基本方針でこうなっていますから、それに合わせてくださいね」と言われても、私どもの頭の中では戦後最大を目標にしていたのが、じゃ、今まで私どもは何を議論してきたのか。20～30年の話じゃなくて、なぜ150年に1度という数字を目標としなければならないのかというきちっとした根拠を示していただきたい。	整備計画では、福井豪雨を含む戦後最大規模の洪水を対象にしてきたが、基本方針ではなぜ150年に一回程度の洪水を対象にするのか？ なぜ初めから1/150で議論しなかったのか？	3013
第30回流域委員会					地域との連携（地域住民対応）	各自治体等の意見の中で、ダム計画の早期確定ということを要望しているわけですね。私も150年より200年の方がいいと思いますけれども、ただ、この早期確定の前に、やはり御協力いただく地権者の方がいる。私たち福井市民は、お世話になる地権者の方々への感謝なりお願いがまだまだ足らぬと思います。そういう意味でも、受益者としてそういう行動を起こすと同時に、相手の皆さんたちが手伝ってやるという気になったときにまとめていくということです。やっぱり物事には相手があるのだということをおぼろげに忘れてはいけないと思いますし、いずれにしても、早く確定していただきたいと思っております。	ダム計画を早期確定していくためには、地権者の方々の協力が必要であり、その協力に対して感謝の気持ちを忘れてはならない。	3014
第30回流域委員会					地域との連携（地域住民対応）	地元としては、この前も申しましたとおり、やはり1回で用買を完了してもらいたいというのが切なる願いでございますので、そういう点も勘案して、ダムと用買は第1期でやるというような方法で進んでいただきたいと心からお願いいたします。	用地買収を行う場合は、基本方針対応のダム規模を見据えて一気にお願ひしたい。	3015
第30回流域委員会					環境・利水（環境）	河川の自然再生は、今日は昭和18年ではなくて、今のレベルを甘んじて受けるという形の御意見もあったんですけども、今度はまた、改善という言葉は悪いですけども、いい方向へ再生されていくということで、ある意味希望的な観測なんですけれども、ハードの整備と並行して、地域の方も巻き込んで、専門家の方と一緒に考えていく時間が20年30年あると受けとめて、私は、ダムの形態自体が環境にも配慮されるという形で残っておりますので、そこはそういうふう期待したいと感じました。	整備計画での河川の自然再生は、ハードの整備と並行して、20～30年のスパンの中で地域の人たちや専門家と共に取り組んでいくべき。	3016

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第30回

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案					
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	建設コストのことでありますが、やはりこれからいろいろな物の値段が上がってくると思いますので、そのあたりも、余り時間をかけている余裕が実はないのかなど。労働力なんかは低下していく危惧もありますし、とりあえず20年30年というスパンであれば、ある程度こういった新規の公共投資に関する予算も組めるのかなど。そこから先は維持とか改良という時代が変わってきますので、そういう意味で、今日は非常に時代の流れの中で大きな意味のある会議だったのではないかと感じております。	既存の施設を有効活用していく時代になりつつある中で、ダム建設という新規の公共投資を実施することは大きな決断である。	3017
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	生命、財産を守るという安全ということと同時に、地域の自然と文化を守るということについても、やっぱりこれからの計画の中では配慮をしていただきたい。 足羽川の桜は、お目こぼしという大変言葉は悪いんですけども、そういう形で残ってきているとは聞いていますが、そうした我々の文化の問題も含めて、河川の安全とともに論議をしていくことが大事なのではないかと、今日逆に感じさせられました。	整備計画では、生命・財産を守るという安全面と同時に、地域の自然と文化を守るということについても配慮していくべき。	3018
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	池田に建設されることのある部分の環境に関してきちっと精査されているのかというのを、常々、人口の少ない上流部に住まいする者として、我が身につまされるような思いで聞いているんです。コンクリートの壁を96mにしようか76mにしようか、下流域はいろんな分野でかなり影響を受けるはずなんです。導水と簡単に言いますが、福井市の足羽川の環境を言うんだったら、きちっと私たちが納得できるような、池田の、導水される三つの川プラス足羽川ですか、そういうふうなものをお示しいただきたい。地元の方にそれはきちっと示すべきだと思うんです。	ダムや導水路をつくることによって、環境にどのようなインパクトがあるのかしっかりと検討すべきである。その結果については、地元にともしっかりと説明するべき。	3019
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	事前にアセスみたいな形のものごとりが行われるならば、それが出てくると、ダムそのものの大きさについても、環境の方でどういったインパクトになるのかがもう少し見えるのではないかとのお話でもあったかと思うんです。定まれば法アセスにのっとってという部分を言われたんじゃないかと思うんですけども、それはどうですか。計画を定めてから具体的というプロセスになるんですか。	環境影響評価では、計画を定める前に環境に与える影響を評価することはできないのか?	3020
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	長期計画としてほかに代案もいろいろ検討されて、整備計画の延長として基本方針レベルの4川導水という考え方がなされていると理解すればいいんですか。まあ、またダムをつくるのも大変でしょうけれども、遊水地とか、代案としていろいろ十分に比較検討をされて、考え方としてこういうのが登場したのかというあたりも少しお聞きしたいと思うんです。	基本方針では、今回提示したダム計画以外の方法についても検討をしたのか?	3021
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	今日一番重要な決定は、従来の76mのダムか、96mのダムかということだと思います。一般家庭でいえば、カラーラを買うか、クラウンを買うかというぐらいのものです。2倍です。コストだけでなく、環境負荷も大きい。そして、先ほど来の話で、150年にする根拠がやはり甘い。もう一つ、30年先の財政くあいがわからない。それで、30年先にも現在と同じ状況だ、あるいは右肩上がりだということ、とりあえず今つくっておいた方がいいというよりも、今つくれる最小限のものをつくって、様子を見ながらという案もありました。 その辺を踏まえて、今日は本当に1/150でいいのかどうか、理由を含めて、はっきりと皆さんの御意見を伺っておいた方がいいと思うんです。	ダム高を76mにするか、96mにするかは、コスト・環境負荷の面でも非常に差が大きいので、慎重に決めるべき。	3022
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	むだな公共事業はいけませんけれども、後で我々の子孫に憂いを残さないようなことをしっかり我々がやっていくべきではないか。そして、むしろ残す以上はいいものを残していくということで、費用の問題等については、別な機会あるいは別な場で議論すべき問題と違うかなというふうには思っております。	無駄な公共事業はいけない、子孫に憂いを残さないようしっかりと計画していくべき。	3023
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	整備計画という観点ではどうするべきかについては、今まで議論してきましたように、治水の緊急性が非常に高いことが確認でき、それについてダムで整備すべきだということも確認し、サイトも決まりましたので、あとはどれぐらいの規模のものをつくるのかという1点に絞られているとは思っています。 そのときに、今日の御説明では、ダムは30年で償却してしまう、耐用年数が来ってしまうという構造物ではありませんので、やはりその先を見据えて、どういった投資をして構造物をつくるのが技術的にも経済的にも合理的かという点で判断すべきではないかという御説明をされて、私もそのとおりではないかと思っております。	ダムは30年で償却してしまう、耐用年数が来ってしまうという構造物ではないので、その先を見据えて、どういった投資をして構造物をつくるのが技術的にも経済的にも合理的かという点で判断するべき。	3024
第30回流域委員会					治水 (河川整備)	昔、耐震設計でも、重要な原子力構造物は1/150とか、軽いものは1/50とかでした。それに従ってやってきたんだけど、阪神大震災以降、その基準が変わりました。1/150だったら絶対安心だと信じていた神話が崩れました。 これも、1/150で大丈夫かというのは、法律で定められているんだったら仕方ないですけども、確証はないわけです。ましてや、手法によって1,900m ³ /sから2,900m ³ /sまで変わっていて、平均値をとっているのか、積率法をとって2,600m ³ /sを導いているのかという説明すらいただきませんでした。それで、もってカラーラとクラウンのような違いが出てくるわけです。これが700億円と900億円だったらわかりますが、倍ということです。コスト面だけじゃなくて、それぐらい環境負荷もきつと違ってくるだろうと思うわけです。	近年、絶対安心だという神話が崩れていく中で、治水安全度についても慎重に決めていくべき。	3025
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	今までは一つのダムで来たけど、導水という事業がずっとついてきて、やはりいじられる面積が広がってきましたね。そうすると、それに合わせて環境への影響の問題が多分大きくなっていくと思うんです。今までの美山町につくる一つのダムではなくて、幾つもの川の話です。そういうことはすごく大事なことだと思うので、やはりもう一回ぐらい時間をかけて、どういうふう環境の面でフォローできるかということ、皆さんにわかるように説明ができるぐらいまでの時間が必要じゃないかと思っています。 今ごくしゃくしているのは多分、環境という部分で、穴あきにしてしまったら何の影響もないんだということでもフォローされているんだけど、やっぱり何の影響もないかどうかなんていうのはわからない。その環境の部分を詰めていただく時間をもう少しとりませんか。	洪水調節専用ダム+導水路にすれば環境に影響がないというわけではない。今回の計画が環境面に対してどの程度フォローできるようになるかを考えることが重要である。	3026
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	上流に足羽川ダムをつくって、これを漁業という形で、あるいは魚族を環境に結びつけた話は、私はちょっとできないんじゃないかという気がします。したがって、もう既にダムそのものは治水で走っている印象を私は受けるんですけども、穴あきダムだから環境に配慮したということにはならないと私は思います。	漁業面から見て、洪水調節専用ダムを設置した場合でも、期待できる環境を確保するのはなかなか難しいのではないかと。	3027
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	今、環境アセスの問題なんかについていろいろお話を承って、法的な手続としてはしごく整ったいいものだと思いますが、実は、今まで出されたいろんなデータの中で、特に私らの環境分野のものを見るにつけて、こういう生き物の世界というのは賞味期限というのがあるんですね。 それに伴って私が申し上げたいことは、四つの導水路をつくれるうちの割谷川とか赤谷川なんていうのは、恐らく今回、新しく評価をなさっていくんだらうと思うんですけど、もしそういうものの評価をなさっていくのでしたら、その辺のことも緻密に御計画ください。	生物のデータには賞味期限があるので、常に新しいデータで環境評価をすることが重要。導水する水海川、足羽川、割谷川、赤谷川についても最新の調査データに基づき評価をすべき。	3028
第30回流域委員会					環境・利水 (環境)	指標としているような動植物を見られるのも非常に結構ですし、下流部にいる人数は確かに福井に比べればわずかでございますけれども、地質だとか、町で生活している人たちの生活の基盤がどうなっているのか、そこにどういった影響を及ぼすようになるのかということまで、この際、これだけ法律も整備された平成の時代なんですから、私たちも納得できるように、池田の人に対して顔向けできないような状況にならないように、御対応をお願いしたいと思います。	環境影響評価をする場合、動植物も大事であるが、ダムをつくることによって、町で生活している人たちの生活基盤がどのように変化し、どう影響を及ぼすようになるのかの評価も重要である。	3029